北海道知的障がい児・者家族会連合会会報「ほっと 27 号」（2018 年 11 月発行 責任者：石川誼）

ほっと 27 号

道家連ホームページ
http://do-ren.ciao.jp

＊ 2018 年度 道家連「第 2 回研修会」

2018 年 10 月 26 日（金）15:00～16:45 札幌市教育文化会館 4F 講堂において、2018 年度第 2 回研修会を開催しました。

【講師】医療法人社団ナラティブホーム ものがたり診療所所長 医師 佐藤伸彦氏

【テーマ】ものがたりのチカラ

◇精神的・身体的　社会的・スピリテゥアル　ただそこに在る。

◇ただそこに 在るだけでいい尊さ

◇ただそこに在る 関係性の中に在る Being in Relation

◇そもそも人間は 何かに依存せず生きてゆくことなどできない。

・自立ということは、依存を排除することではなく、必要な依存を受け入れ、自分がどれほど依存しているかを自覚し、それに感謝して生きることではなかろうか。

・依存を排除して自立しようとする人は、自立ではなく孤立になってしまう。

◇命といのち

◇生命体としての 命 Bio-logical　ものがたられる いのち Bio-graphical

・「命」を救うことには限界がある。

・誰でも百パーセント、その「命」には終わりがやってくる。

・生命体としての「命」とは別に、一人の人間の人生として、ものがたられる「いのち」がある。

・「命」は自分のものであるけれど、自分一人だけの「いのち」ではない。

◇いのち 命

◇二項対立 二項バランス

◇人生（いのち）の中で 病気や障害は その人の一側面

◇物語的理解 （腑におちる）

◇ものがたり

・事柄と事柄を結びつけて（繋いで）意味付けをすること

・意味の生成装置

◇ものがたりのチカラ

・行為の連続が理解可能となるには、ある文脈（＝ものがたり）が必要

・私たちはみな自分の生きている物語を基にして自分自身の人生を理解している。

・人間はその行為と実践において、本質的に物語を語る（story-telling）動物

◇善の中にも悪がひそみ、悪の中にも良いことが潜在している。

◇一人よがりの正義感や独善主義

・自分以外の世界を認めず、自分の主義にあわぬ者を軽蔑し裁く。

・他人を傷つけ、時には不幸にさえする。
◇善魔
・自分が良かれと思ったことを要求したり、おしつけたりの「善魔」になってはいないか。
◇文脈で看取る
◇ものがたりとして　いのちに関わる
・人は関係性の中で生きている。
・単なる生命体として何者からも独立しているものではない。
・障がいや認知症などで意志の伝えることの困難な方の終末期をどの様に支えていくのか。
・看取りは、医者の分野ではなく、縁のある方々が送って差し上げるもの
◇我々はどこから来たのか　我々は何者か　我々はどこへ行くのか

主な内容を列挙させていただきましたが、身につまされる内容に、多くの方々が感動し、涙を流されていました。

開始時間なども影響し、参加者は合計 54 名でしたが、もっともっと多くの方々に参加していただきたいと思われる研修会でした。

資金協力をしてくださいました、北ひろしま福祉会共栄緑の郷（共催）及び札幌市知的障がい児・者家族会連合会（協賛）にも感謝申し上げます。

＊＊＊

＊ 道家連アンケートについての活動

安田由美参与が、各地に赴いて講演してくださいました。

安田由美参与の活動に敬意を表し、感謝申し上げます。

◎ 道央地区知的障がい児・者家族会

9 月 19 日（水） 北広島市芸術文化ホール・活動室 1・2 にて、研修会が開催されました。

「親亡き後、何が一番心配？」、「今の施設が終の住処になるために」、「家族の安心のため、本人の幸せのために」等について、保護者の思いをくみ取り、どのように活動したらいいのか、アンケート結果から伝わってくる切実な思いを共有し、共に考え、語り合う機会を持ちました。

合計 37 名の参加がありました。

◎ 道北知的障がい児・者家族会連合会「勉強会」

10 月 4 日（木） 旭川市知的障害者福祉センター「おぴった」にて、勉強会が開催されました。

まず、道家連の活動についての基調報告があり、次に、「道家連アンケートから～共に考える」をテーマに、アンケートの結果に基づき、親・兄弟・子ども・保護者・施設ができることについての講演をしていただきました。

合計 70 名の参加がありました。

＊＊＊

＊ 全施連第 14 回大会決議

全国知的障害者施設家族会連合会は、平成 30 年 10 月 23･24 日二日間にわたって神戸市において、第 14 回全国大会を開催し、一人で暮らすことが困難で、家族の支援も確実に失っていくなか、制度としてこれ以上の福祉の後退は許されないという思いから、障害福祉制度が知的障害のある人、その家族が安心して託せる制度になることを願って全国から集い語り合いました。充実した公的支援制度の実現が願いです。現在、福祉政策のパラダイムの転換が起きています。「地域包括ケアシステム強化法」は「地域共生社会」の実現に向け、介護保険制度、障害福祉制度に「共生型サービス」を創設し、障害福祉と介護保険との一体化、統合が図られようとしています。

私たちは障害者の権利を守り、障害のない人と同等の暮らしができることを求め、次の事項を本大会の決議と致します。

決　議

1. 障害福祉制度と介護保険制度との一体化、統合は廃止して下さい。
2. 24 時間切れ目のない支援で快適に安心･安全に暮らせる障害者支援施設や
   グループホームを居住する家と位置づける制度を新設して下さい。
3. 支援の制限に繋がる支援区分は本人に必要な支援が受けられる仕組みに変えて下さい。
4. 安定して必要な支援が受けられる職員の定員増と処遇改善を急いで下さい。
5. 知的障害者の特性を熟知し、福祉職の専門家としての施設職員を育成して下さい。
6. 生活保護費以下の障害基礎年金の引き上げ、憲法に保障された公的責任を果たして下さい。
7. 国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこととして下さい。

＊＊＊

＊ 知的障害者 支援充実を 家族会が全国大会（2018 年 11 月 5 日 毎日新聞）

知的障害者の家族団体「全国知的障害者施設家族会連合会」の全国大会が 10 月下旬、神戸市垂水区であった。約 600 人が参加し、支援制度の充実に向け、国や自治体に働き掛けることを申し合わせた。

「どうする？ 家族とわが子らの高齢化」と題した討論会では、障害者福祉に詳しい北九州市立大の小倉久教授と埼玉大の宗澤忠雄准教授が司会を務めた。参加者からは「親を亡くした障害者らが適切な医療を受けられる体制が必要だ」と声が上がった。

県内の施設運営者も参加し、利用者の生活の質を上げるためには、職場としての魅力を高めることが欠かせないと主張。職員が障害について理解を深めるため、家族と連携する重要性も指摘された。

全国大会は毎年開かれており、県内での開催は 2010 年に続いて 2 回目。連合会の由岐透会長（78）＝神戸市北区＝は「全国のどの施設でも良質なサービスを受けられるよう、家族と意見交換したい」と話した。

＊＊＊

＊ 全施連第 14 回全国大会 in ひょうごに出席して（道家連 石川誼会長）

2018 年 10 月 23 日（火）～24 日（水） 神戸市シーサイドホテル舞子ビラ神戸において、全国大会が開催されました。

【テーマ】今から始める第一歩～福祉の後退を許さない～

「我が事・丸ごと地域共生社会のしくみ」で、知的障害をもつわが子らは真に幸せな生涯が送れるのでしょうか…等、さまざまな局面から考え話し合いました。

2日目の全員参加型討論会では、施設事業者側からも家族側からも家族とわが子の高齢化が深刻な問題で、家族からは施設が終の住処となってほしいことや、親の死が利用者に与える影響の心配等、わが子・わが兄弟への思いを切切と訴えていました。

◎ 明石市長 泉房穂氏の記念講演がありました。

【テーマ】“やさしい社会”を明石から～誰もが安心して暮らせるまちをつくろう～

泉市長自身の弟は、歩けない、走れないという障がいをもっています。

障がい者の弟がいることで悔しい思いをしたことで、「困っている人の具体的な力になりたい」、「障がい者が暮らしにくいのは、障がい者や家族の責任でない」、「障がい者が暮らしやすい社会をつくるのは行政と社会の責任である」、「福祉の充実を町の発展につなげる」と熱く語られたことに、感動を覚えました。

北海道からは 6 名が参加しました。

＊＊＊

＊ 編集後記

今回の「ほっと 27 号」は、「道家連アンケートの活動」と「2018 年度道家連第 2 回研修会」、そして、「全施連第 14 回全国大会」がメインとなりました。

当初の考え方としては、各地区の活動や施設のイベントなども取り上げる予定でした。

しかし、9 月に「日高胆振大震災」が起きてしまい、さまざまな影響がありました。

そのことも、投稿されることに何らかの関係があったかと思われます。

道家連として、課題は数多くあります。

ひとつひとつ、できることから取り組み、皆さんと共に考え、関係するすべての人が幸せになるよう活動いたします。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

＊＊＊